

第二回日仏セミナー

「仏教とアジア社会」会議報告

日本側事務局長 坪井善明
北大助教授



「仏教とアジア社会」をテーマとして、第二回日仏セミナーが昨年の一月八、九、一〇の三日間、パリ市四区マーラー街九番地パリ第一大学会議室で開催された。このセミナーは上智大学アジア文化研究所とパリ第七大学第三世界・アフリカ研究センターの共同主催により開かれたもので、日仏共同の国際研究プロジェクト「宗教とアジア社会」の枠組みの二回目として挙行された。第一回目のセミナーは「キリスト教とアジア社会」のテーマで、日本学術振興



渡仏する一行

会と仏国国立科学術研究センターの日仏科学協力事業として一昨年（一九八六年）九月二九日から五日間、東京にある上智大学で開かれた。

第二回の成果をふまえ、パリで、特に、仏教がどのような組織とリーダーを育成しながら宗教活動を続けたのか、各アジア社会の民衆に対して、その社会に根づいた仏教はどのようなメッセージを強調して伝えたのか、を中心に、仏教の社会的、政治的機能の比較研究を行なうことになった。

今回のセミナーの特徴は次の二点に要約できる。①、比較研究の対象が空間的にも時間的にも多種多様であったこと。つまり、日本、中国、タイ、ラオス、ベトナム、ビルマ（紙上参加）と東アジア・東南アジアの六カ国の仏教と社会が論ぜられ、時間的にも、中世、近世、現代の仏教と当該社会との関係が討議された。②、仏教を仏教学者だけが論ずるのでなく、様々な分

野で活躍する学者・宗教家が参加し、一般の人々に対しても、六カ国の仏教と社会の特質をわかり易く説明しようとしたこと。後述のリストで見る通り、宗數字、歴史学、民族学、政治学、仏教学という多彩な研究者ばかりでなく、曹洞宗僧侶の宗教家も参加して頂いた。

「一つの車輪—仏法と王権—」
加藤栄一

(東京大学史料編纂所教授)
歴史学

「日本社会と仏教伝統における帝釈天」

ベルナール・ランク

(コレージュ・ド・フランス教授)
日本仏教学

「中国における民衆宗教とキリスト教」

矢澤利彦

(埼玉大学名誉教授)
中国キリスト教史

「基督教国家中国における仏教と権力」
レオン・ヴァンデルメルシユ

（パリ大学高等研究院教授）

（前東京日仏会館学長）
宗教学

三日間のセミナーの研究発表のテーマと発言
者は次の通り

第一日（一二月八日）

開会の辞

基調報告

第二日（一二月九日）

「タイにおける現代仏教の諸傾向」

ソラーンジュ・ティリ

(パリ大学高等研究院教授
東南アジア宗教社会学)

グエン・テ・アイン

「覚靈を資助して仏果を成せんことを」

—日本における仏教の土着化の一様相

(国立科学研究中心研究員
元フエ大学学長
政治経済学・歴史学)

奈良康明

(駒沢大学仏教学部教授
仏教学)

「新しい教化路線を求めて

—五年の軌跡とその成果—」

黒田武志

「ラオスにおける一九六〇年以降の
政治社会変革と仏教の変質」

(曹洞宗善光寺住職
宗教家)

ピエール・ベルナール・ラフアン

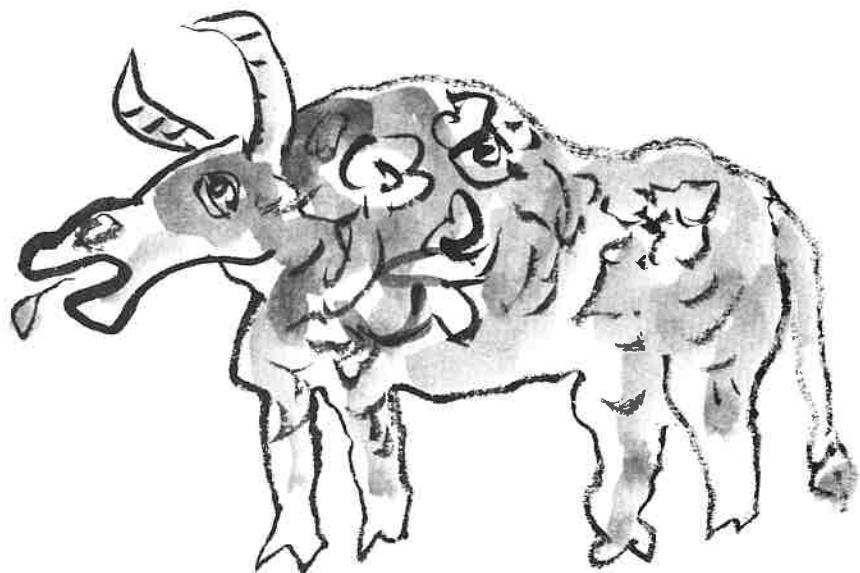
(パリ大学高等研究院教授
民族学)

総括討論
閉会の辞

セミナーは仏語・英語・日本語で行なわれた
が、同時通訳の立派な設備があり、特に平安時
代の天台宗を専攻するパリ第七大学助手ジャ
「一九六〇年代の南ヴェトナムにおける
仏教徒の政治参加」

ン・ノエル・ロベール氏の協力もあって、難解な仏教用語もスムーズに翻訳され、大好評であった。連日、新進の学者の卵達、仏教に関心をもつフランス人、高名な知識人たちが熱心に聴講し大成功であった。このセミナーの詳細な報告書は、日仏両国語で年内に出版される予定である。

禪 牛圖





加藤栄一教授 奈良康明教授 ベルナール・ランク教授 黒田方丈